



区民が主役の まちづくり!

伏見区区民活動支援事業活動事例集

(平成24年度～25年度)



伏見区役所・深草支所・醍醐支所

～はじめに～

「伏見区区民活動支援事業活動事例集」は、平成24年度からスタートしました同事業の取組をより多くの皆様に知っていただくことを目的として、また、この2年間に取組まれた団体の活動報告を兼ねて作成しました。

「自分たちも伏見区内で何か活動ができないか」とお考えの皆様の参考になれば幸いです。

<目次>

1. 伏見区区民活動支援事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・P1
 2. 審査委員長からのメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・P2
 3. 採択事業団体の取組・・・・・・・・・・・・・・・・P3～P27
- (1) 活動団体へのインタビュー

団体名	事業名	掲載頁
醍醐学区自治町内会連合会	世界遺産・醍醐寺周辺のまちづくり（平成24年度の取組）	3～4
桃山プロジェクト	桃山プロジェクト（平成25年度の取組）	5～6
伏見まるごと博物館	伏見まるごと博物館（平成24～25年度の継続取組）	7～8
横大路まちづくり協議会	草津湊鯉海道祭り（平成24～25年度の継続取組）	9～10

(2) 平成24年度の取組

団体名	事業名	掲載頁
フシミシュラン	フシミシュラン（ガイドブック）	11
伏見環境チーム	大岩山の魅力を体感する自然調査プロジェクト～里山の自然に触れて学ぼう！～	11
醍醐コミュニティカフェ実行委員会	醍醐コミュニティカフェ（醍醐大学）	12
濃縮風景採集民	0.3mmのものがたり～ピンホールカメラでふしみをとろう～	12

(3) 平成25年度の取組

団体名	事業名	掲載頁
淀南地誌の会	淀南地域の歴史本作成作業	13
小栗栖宮山学区社会福祉協議会	高齢者サロン活動「茶房ありがとう」	13
淀みず車の会	淀の歴史、文化を広めるための紙芝居制作・公演事業	14
池田東自治町内会連合会	災害に強いまちづくりをみんなの力で	14
l. m. a	おやこでアートを楽しもう	15
新町三丁目まちづくり検討委員会	ここちよい新町三丁目のまちづくりに向けて	15

団体名	事業名	掲載頁
伏見歴史顕彰会	伏見のヒーロー伝説とまちづくり計画	16
桃山南学区自治会連合会	桃山南学区安全マップ作成	16
伏見クラブ	おおぞら少年少女ラグビーチーム中学生になってもスポーツ続けようプロジェクト	17
伏見まちかど音楽隊	伏見まちかど音楽隊	17
向島二の丸学区防犯パトロール隊	きずなづくりニュータウンで防犯活動 新聞及び防犯マップ作り	18
田中宮市営住宅自治会	竹田南部あんしん安全まちづくり事業	18
ゆるキャラで町おこし実行委員会	ゆるキャラで町おこししよう	19
京都市伏見地域活性化プロジェクト～学びで観光の質向上を～	みんなで楽しむ伏見の新 sake スタイル提案	19
父活 PROJECT	父活 PROJECT2013「ものことば」	20
みどりの会伏見桃山	里山とクリーンエネルギーの再生	20
深草・龍谷町家コミュニティ	伏見の「知の資源」を伏見で活かそう！	21
春日野自治町内会連合会	安心安全の「まちづくり」活動	21

(4) 平成24～25年度の取組

団体名	事業名	掲載頁
醍醐西自治町内会連合会	地域のコミュニティ活性化の祭典！「秋の豊穰祭り・子供みこし巡行」	22
向島駅前まちづくり協議会	「向島駅前まちづくり憲章」の推進事業ー健康福祉のまちづくり調査事業ー	22
京・ふかくさ・藤森桜並木を愛でる会	2014・桜ゆらぐ疏水の街 ふかくさ・元気計画	23
伏見歩き隊	伏見の歴史と文化を学ぼう！～まちゼミ&まち歩き～	23
「伏見のヨシ原、再発見！」プロジェクト	「伏見のヨシ原、再発見！」プロジェクト	24
ここはづ市実行委員会	地域から広げる手作り市・久我・久我の杜・羽束師「ここはづ市」	24
醍醐石田まちづくりプロジェクト実行委員会	醍醐石田まちづくりプロジェクト	25
久我・久我の杜・羽束師地域まちづくり協議会	久我・久我の杜・羽束師地域における住民主体のまちづくり	25
深草藤袴の会	深草のまちで育む藤袴プロジェクト	26
京都深草ふれあい隊 竹と緑	深草産・竹紙うちわの技術・文化の継承プロジェクト	26
人づくり 21 世紀委員会 伏見東人づくりネットワーク実行委員会	第 2 回醍醐灯りのハーモニー～みんなのところに灯りをともそう～	27
山科醍醐こどものひろば	醍醐のこどもをつなぐ「人形劇フェスティバル」	27

※申請順に掲載しています。(4)は平成24年度の申請順)

4. おわりに（編集後記）・・・・・・・・・・・・・・・・P28

1. 伏見区区民活動支援事業概要

この事業は、「伏見区基本計画～皆でつくる すむまち伏見～」の推進に当たり、区民の皆さんが、自分たちの地域を暮らしやすい魅力あふれるまちにしていくために、区民主体で取り組まれるまちづくり活動経費の一部（事業経費の4分の3以内、上限額30万円）を支援するものです。

採択事業は、「伏見区区民活動支援事業審査会」委員による審査を経て、伏見区長が決定します。

平成24年度

募集期間 平成24年5月16日(水)～平成24年6月29日(金)

応募状況	(1) 申請事業数	26事業
	(2) 採択事業数	19事業

平成25年度

募集期間 平成25年4月15日(月)～平成25年5月15日(水)

応募状況	(1) 申請事業数	39事業
	(2) 採択事業数	33事業

(前年度からの継続分14事業を含む)

2. 審査委員長からのメッセージ

平成 24 年度から京都市において区民提案・共汗型まちづくり支援事業予算が創設され、各区において区民が主役のまちづくり活動を応援する「区民活動支援事業」がスタートしました。

伏見区においても、自分たちのまちを元気にするような活動を展開していただく最初の一步を支援するという趣旨で募集を開始しました。予想をはるかに超える数の応募があり、公平に審査するため、学識者・NPO 団体・地元各種団体・行政関係者で構成する審査会を開催し、応募者によるプレゼンテーションをお聞きした後、私も含めた 11 名の委員で審議しました。

どの事業も多彩な内容で創意工夫に満ちており、公開プレゼンテーションもそれぞれ工夫が見られ、「自分たちのまちは自分たちの手で良くしていく」という熱意がひしひしと伝わってきました。審議の場では、「全事業採択できないものか」という意見が各委員から出るほど、迷いに迷ったものとなりました。私も同様の思いでしたが、予算に限りがあることから、数を絞り込み、最終決定者である区長にお伝えさせていただきました。

事業申請数も年々増加しており、皆様のまちづくり活動の輪が広がってきていることに喜びを感じております。

事業実施に当たっては、P(Plan)⇒D(Do)⇒C(Check)⇒A(Action)が大切であります。事業実施前、実施途中、実施後とその都度、振り返っていただき、見直しをされることで、更により良いものになると思います。

今後とも伏見区のまちづくりに御理解、御支援を賜りますようよろしくお願ひします。



審査委員長
加藤 博史
(龍谷大学
短期大学部教授)



審査会の様子

3. 採択事業団体の取組（24 は 24 年度実施, 25 は 25 年度実施）

（1）活動団体へのインタビュー

世界遺産・醍醐寺周辺のまちづくり <醍醐学区自治町内会連合会> 24

世界遺産醍醐寺を抱く醍醐学区として、国内はもちろん、世界各国から観光に訪れる多くの人々に、その素晴らしさと感銘を与えるには、まず環境の整備であると考えました。そこで、醍醐小学校校門横の柵に「ふるさと醍醐」とタイトルを付け、同小学校児童に「醍醐の夢と誇りを絵に描きませんか！」とアイデアを募集しました。子ども達が美しいふるさと醍醐地域に誇りを持ってほしいと思い、桜や太閤行列等、四季折々の伝統行事の風景をモチーフに6枚のパネルを作成し、下面には、芝桜を植付けました。



取材に快く応じてくださった板谷会長(右)と、林校長先生(左)



事業によってきれいに整備された醍醐小学校前の小川の姿

活動インタビュー

■醍醐寺に面する小川を地域の力できれいに

世界遺産、醍醐寺の懐に抱かれるようにある醍醐小学校。醍醐学区自治会町内会連合会では、その前を流れる小川をきれいにしようとする活動に取り組まれてきました。この取り組みについて、醍醐学区自治町内会連合会の板谷会長と醍醐小学校の林校長先生にお話を伺いました。「学校の前の小川が、土砂がたまって雑草だらけになっていたんですね。醍醐寺に来る観光客も多いのに、印象が良くないのが気になったのです。そこで、川を見直してきれいにしよう。醍醐は観光の名所であり、みんなが訪れて、ちょっとでも和んでもらえるようにしたらどうだろうと。そして地域の子どもたちにも、醍醐のまちを見直してほしい、愛してほしいと思ったのです」

このような想いから始まった活動、しかし小川とはいえ河川の改修には大きな費用がかかります。その時、偶然、区民活動支援事業で補助金が出ることを知り、実施に踏み切ったそうです。「これがなかったらできなかったですね」と会長は語ります。溜まった土をダンプで取り除き、今後泥が溜まるのを避けるために川底に約10トンの石を敷き詰めました。また、水が溜まりやすいようにダム要領で段差を作っています。「近所に居を構える高齢者のお話では子どもころは魚も一杯いました、それを復元するために川を綺麗にしたいと考えたのです。渇水期になると石が現れるから、少しでも深くした方がいいだろうと」。

作業には自治会やPTAなどの地域団体に加え、小学校の協力が大きな力になりました。また、整備後も地元の子どもたちが、小学校長の指導のもとに住民の方より頂いた小魚とかザリガニを児童が放流。醍醐への愛着を高めるため子どもたちが原案をデザインした「ふるさと醍醐」というパネルが飾られたりするなど、これまで以上に地域に親しまれるようになっていきます。また、整備される前は多かった川へのごみのポイ捨ても整備後は激減するなど、好ましい変化が起こっているそうです。



■やるなら面白く、楽しんでやりたい!

しかし、こういった事業は大変です。やりたくてもできないところも多い中、なぜ醍醐学区ではこれが出来たのでしょうか? 醍醐学区では、まず地域のニーズを知るために、板谷会長が就任された際にアンケートを実施するところから始めました。

「アンケートは 2000 世帯中 500 件ほど返ってきました。いろんな声が上がりました。その中で人気のあるテーマをピックアップして、同好会という形で集まってやっていくことにしたんです」

板谷会長は、自治会や各種団体の事業と並行する「同好会」という形で呼び掛け、このアンケートの中で明らかになったテーマごとに集まりを作っているそうです。例えば、ゴルフ好きの集まる同好会や、地域に多い独身高齢男性の交流のきっかけづくりを目指す“男の料理教室”同好会などがあります。これらの同好会の一つに、前述の小川の整備事業のさきがけとなる集まりもありました。

「先日、地域の奥さんから声をかけられたんです。“いままでいろんな会長さんを見てきたけど、今度の会長はいろんなことをしてくれて楽しい”と言われました。とてもうれしくて、これは続けなければ」というように会長は同好会活動について語ります。この同好会活動は、今後も取り組むテーマごとに増やしていく予定だそうで、まちの散策会や、灯籠会の開催、新聞社訪問や公共施設の見学ツアー・最低料金による J R 琵琶湖一周日帰りの旅などのアイデアもあるそうです。

とはいえ、これだけの活動は一人ではできません。「仲間をつくるきっかけづくりを今年はやりたいと思っています」と板谷会長は語ります。「大変ですが、誰かに“やっという”と丸投げしたのでは、皆んなに協力してもらえないですから」

■醍醐学区を支えるもの…「楽しんで取り組む」と「醍醐の中核であるという誇り」

これだけ精力的な活動をどうして続けていけるのでしょうか? 板谷会長は次のように語ってくれました。

一つ目は「楽しんで取り組む」という気持ちです。「地域の会長って、誰でも“なれる”けど、誰でも“できる”ことではない。苦痛を感じる人も多いです。でも私は、同じやるなら、自分も楽しまなくては損だと。人の嫌がることを逃げてもしようがない、自分から好きになっていきたい。そしたら何をしても苦痛に感じない」

そしてもう一つ大事なものは、「醍醐の中核であるという誇り」です。現在の醍醐地域には 10 の小学校がありますが、宅地造成が進む前は、醍醐小学校が唯一の小学校でした。そのため、少し年配の方となると、みんな醍醐小学校の卒業生になるのです。「昔は小栗栖から 30 分くらいかけて草履で通ってはったらしいですよ」と林校長先生は語ります。そのため、「古くからお住まいの地域の方は、醍醐小が原点という誇りを持っています。だから、醍醐小が綺麗になるとするのは醍醐全体にとって母校が綺麗になるということでもあるんです」という文化があるそうです。

そんな文化について、板谷会長は「醍醐の良さを広めたい。せっかくこんな良い土壌があるのに、みんなが気にせず暮らしていることがもったいないな」と語ります。これが、小川の整備事業をはじめとした、精力的な地域活動を支える原点になっています。

■この事業のこれから

しかし小川の整備事業は、一度やってしまえば終わりというものではありません。「川は手入れしないとあっという間に汚れてしまいます。日ごろの清掃は小学校がしてくれますが、地域でも継続的に取り組んでいます」と板谷会長が語るように、きれいな景観を守り、育んでいく活動はこれからも続いていきます。

整備活動の一環として、この小川に隣接する石垣に芝桜の苗を 200 株植えたそうです。「今年の春には綺麗に咲くはずですよ」と楽しそうに語る板谷会長。地域で育んだ、きれいな川と、その上に舞う桜、という風景は、きっと格別の美しさを私たちにを見せてくれるでしょう。

桃山プロジェクトは、かつては桃の名所だった伏見桃山地域一体に、桃の花が春に咲きほこるようなまちになることを目指して平成 24 年に生まれた団体です。現在、伏見に縁のある人メンバー約 20 名が、主に伏見の桃の歴史研究、桃の植樹、植樹後の管理を行っています。「伏見桃山を再び桃香と色彩あふれる桃源郷に」を合言葉に、3 年間で 1,000 本の桃の木を植えることを目標としています。



伏見桃山で桃を植樹するメンバー



桃を植樹するようす

活動インタビュー

■できることから始めよう

「『桃山という地名なのに、桃の木を見かけないのはどうしてなんだろう?』と、ふと思ったことが活動を始めたきっかけです。」と桃山プロジェクト代表の藤崎さんは話してくれました。

「伏見桃山の名前の由来を調べるうちに、江戸時代には『吉野の桜か伏見の桃か』と言われるぐらい桃見の名所だったことが分かりました。」と語る藤崎さんは、それならば「桃山エリアに桃の木が植えられたら、景観も良く歴史も感じられて素敵だな」と思い、平成 24 年度伏見区区民活動支援事業（以下、支援事業）に応募しました。

ところが、結果は採択されませんでした。当時を振り返ると「企画が弱かったのかな。」と話す藤崎さんですが、そこであきらめずに「お金がなくてもできるところからやろう」と気を取り直しました。

■最初は仲間づくりから

平成 24 年 6 月、伏見区役所が主催する「伏見をさかなにぎつくばらん」（以下、ふしぎく）というまちづくり交流会に参加しました。「ふしぎく」の場で、藤崎さんが「桃山プロジェクト」の構想を語ると、「私もやってみたい」との声が聞かれました。「『ふしぎく』に顔を出したら、地元暮らし仲間や大学生の仲間ができて心強かった」と藤崎さん。チームを作り、平成 25 年 5 月までに公園や学校など計 7 か所に 30 本の桃を植えました。

■活動の醍醐味と課題

「ふしざく」での経験を経て、再び平成 25 年度の支援事業に応募し、採択されました。

「桃山プロジェクト」の活動では、「桃からひも解く歴史を調べることも楽しい、桃の植樹の話聞いた伏見桃山地域の人たちが『それはいい話だね』と喜んでくれることがうれしい」と藤崎さん。

一方、住宅地の多い伏見桃山では、植樹場所を見つけるのは難しく、また、植樹した桃の木に万が一害虫がついて苦情がでたら、という辺りも頭を悩ませることの一つだそうです。1本2,000円掛かる桃の木を1,000本植えるための費用を捻出しなければならなかったり、植樹するための事務手続きを担えるメンバーも不足していたりと、活動を続けるうえでの課題も抱えています。

■桃をテーマに、地域に根ざした活動を

伏見桃山に暮らす人たちに活動を知ってもらうために、チラシを作り、活動拠点にしている雑貨屋『ピアーズンピアーズ』で事業説明会を毎月開きました。周知活動を行いつつ、植樹場所を見つけた結果、平成 25 年 12 月までに約 120 本の桃が植えられました。協力してくれる地域の方も増え、学生もたくさん集まってきました。

「面倒なこともあるけれど、まちに自分の居場所ができるし、まちの人たちも喜んでくれる」のが活動の魅力だと語る藤崎さんは、「支援事業 2 年目は、仲間と一緒に、桃を使ったスイーツコンテストや植えられた桃をめぐる散策会、そして桃の花が咲く時期に桃祭りも開催してみたい」と教えてくれました。

■参考

桃山プロジェクト

活動拠点『ピアーズンピアーズ』の HP : <http://www.piersnpeers.com/>

桃山プロジェクトの HP : <http://www.momopro243.com/>

Facebook : <https://www.facebook.com/momopro243/info>



古地図で桃の植樹状況を確認



子ども達と一緒に行われた植樹

伏見まるごと博物館は、伏見の自然・歴史・文化・生活・産業等を、住民自らが探求し、次世代に伝えることを目的として、調査、展示、シンポジウム、まち歩きなどを行っています。まちを知ることによって愛着が湧き、誇りにつながると考えるメンバーが、平成 23 年度から活動しています。博物館を建設することを目指すのではなく、特色豊かな“伏見の普通”を、できるだけ現地で再発見し、現地で保存し、それを内外に紹介しようとしています。



夜や土日を中心にメンバーが議論を重ねます



催しはたくさんの人を迎えます、右端が北澤さん

活動インタビュー

■通称「まる博」(マルハク)の活動

伏見まるごと博物館(通称「まる博」)は、平成 23 年度に、伏見のまちを愛する人、伏見のまちをもっと誇りあるまちにしたい人達が集まって、活動を開始しました。リーダーの北澤さん曰く、「まるごと博物館とは、まちのお宝を一か所に集めるハコモノを建てる活動ではありません。伏見とは、どこにでもありそうな地方都市ではなく、個性にあふれ、土地への誇りを持つ地域のはずではないか。皆さんがそんな伏見を訪れ、まちの人々と触れ合うことで、今あるかけがえのない地域の資源を一緒に大事にしていこう、という考えに基づいているんです」とのこと。調査や催しを通して、伏見の先達を敬い、若者世代の地域での社会参加を促すことも目指しています。区民活動支援事業での 2 年間は、よちよちの任意グループだったまる博が、多くの方々と出会う中で成長し信頼を得るための期間になりました。

■試行錯誤の 2 年間

平成 24 年度は、「人がまちを訪れる」ところを大事にしようと、同じエリアで、異なった二つのまち歩きを実施しました。伏見に暮らす人にも、初めて伏見に来る人にも参加してもらい、たくさん感想をいただきました。個性的なメンバーが持つ多様な価値観や地元の方々の反応などを振り返ったうえで、まるごと博物館(以下、まる博)の活動で探求していきたいテーマを出し合いました。まちの面白いこと、奥深いこと、残していかなあかんこと、いろいろ出てきた中で、「まる博はこんなことを扱っていきたいので、皆さんもご一緒にいかがですか」というお披露目とお誘いのために、伏見区総合庁舎 4 階の伏見青少

年活動センター等でオープニングイベントを開きました。伏見全域が端までちゃんと載った大地図を囲んだ会場では、伏見が起源の事物を探る展示、80代の方々の話からまちのにぎわいを再現しようと試みたワークショップ、伏見のソウルフード粕汁を調査した結果からレシピを作った「粕汁食べ比べ」、設立経緯を紹介して参加者と共に期待を語るフォーラム、などを行いました。



変わりゆくまちのそこかしこがフィールドです



豊かな伏見のつながりを語る「水の仕事」

平成25年度は、改めて活動のコンセプトを話し合い、年間統一テーマを「水」と定め、まる博ならではの「大事」かつ「今こそ」のプロジェクトを立ち上げました。

一つは「水の匠」プロジェクト。伏見で活躍する染織史家吉岡幸雄氏のドキュメンタリー映画「紫」を伏見で初上映し、伏見に根ざした農を営む山田ファームの山田豪男さんとの対談を行うイベント「水の仕事」を実施しました。準備の段階で関わりの深い向島地域に何度も出かけ、当日は、丹波橋の町家をお借りして、満員の参加者と共に伏見の奥深さに耳を傾けました。

もう一つは、「水との共生」プロジェクト。9月の台風18号を契機に、川との付き合い方を先輩達に学ぼうと、桂川、宇治川流域を歩き、地元の方々に、こわい川との付き合い方を、楽しい川との関わりと共に聞きしました。これらをもとに、2月16日には、「消えた水辺の暮らし」と題したシンポジウムを行いました。

まる博では、今後、「水との共生」プロジェクトの区内数か所での巡回展示、水をテーマに青少年グループと共催する本の紹介イベント「ビブリオバトル」などを計画しています。

■足元を見つめながら歩む“地域のプラットフォーム”に

たくさんの市民活動がある中で、なぜ新たに集まってこうした活動をするのか。「自分の足元の地面がどうなっているか知りたい。今知るための行動をしなければ、という危機感があります。そして、何かを見つけた喜びや知った魅力を、一人でも多くの人に伝えたいのです」とリーダーの北澤さんは言います。ほとんどのメンバーが、仕事を持つ現役世代。あちこちの市民活動や地域活性化でリーダーを担う人達が、忙しくても「これはやらなあかん」と集まって進める活動です。将来的に、伏見の奥深さを蓄積し発信するプラットフォームの役割を果たしていきたいとのことでした。

横大路まちづくり協議会は、平成 22 年の「第 1 回横大路桂川・草津みなとフェスティバル草津湊^{みなとはも}鱧海道祭り」(以下、草津湊鱧海道祭り)をきっかけに、平成 24 年に生まれた団体です。横大路地域の環境改善と、子どもから大人までが参加し、まちが一つになることを目指した「草津湊鱧海道祭り」の企画・開催を中心に活動しています。

平成 24 年度は、「第 3 回草津湊鱧海道祭り」として、子ども向けの自然環境学習会や「鱧と鮎を学ぼう」というテーマで講演会を開きました。平成 25 年度は、桂川河川敷で「第 4 回草津湊鱧海道祭り」を開き、2,000 人以上の参加がありました。



「まちづくりは夢がありますね」と語る岡井さん(左)と榎さん(右)



第 4 回草津湊鱧海道祭りの様子

活動インタビュー

■人の縁、川の縁がつなく鱧海道祭り

横大路地域では、平成 22 年から毎年「草津湊鱧海道祭り」を行い、横大路と桂川の関わりについて学ぶ機会を設けながら、3 年に一度桂川河川敷で大規模な「草津湊鱧海道祭り」を開催しています。

「祭りを通じて地域の輪ができ、地域の良さをみんなで分かち合えるようになった」と桂川・草津湊鱧海道まつり実行委員会で委員長を務める榎さんが語るとおり、祭りには、自治連合会を始め、各種団体、行政、学校、農協、環境関連会社で構成される「千両松地域エコ協議会」や酒造会社などの地域の企業が協力し合い、祭りを企画しました。

企画担当の岡井さんは、「企画会議で誰かが提案すれば『無理だよ』などと言わず、実現するにはどうしたら良いかとみんなで前向きに考える雰囲気があります」と教えてくれました。

その結果、平成 25 年 10 月に行われた「第 4 回草津湊鱧海道祭り」では、地元ガイドによる「横大路遺跡散策会」を開いたり、区民活動支援事業に採択されている「淀みず車の会」の協力を得て、横大路の歴史を描いた紙芝居が披露されたり、京都水産物商業協同組合による加工水産物の販売、日本食育者協会による鱧の調理実演が行われたりと、様々な企画が実現しました。



横大路の歴史を伝える紙芝居



開会式での吹奏楽演奏

■家族ぐるみで楽しめる祭り

「実行委員会では、子どもが参加しやすい祭りになるよう工夫しました。『わたしの好きな横大路』をテーマにした作品展示では、大人だけでなく子どもからの作品も集まればとの思いから学校や児童館に声を掛けたところ、子ども達が横大路の絵を描いたり、まちの良さを模造紙にまとめたりした作品が並びました。それを見に来た家族の姿で祭りが賑わいました」と岡井さんは語ります。

■苦楽をともに、祭りでつながる横大路

「草津湊鯉海道祭り」の開催に当たって、苦労したのは会場整備だそうです。会場となる桂川河川敷の草刈りをした直後に、2度の台風で会場が冠水してしまったのです。「上流から流れついて溜まった大量の土砂やごみを前に、委員の多くがめげそうになりましたが、片づけを終えて、青空が広がる祭りの朝を迎えた時には、今までの苦労が吹き飛びました。」と榎さん。当日はスタッフ280名が協力し合ってブースやステージ、会場運営などを担当し、子どもも大人も祭りを満喫する1日となりました。

「3年後の平成28年も草津湊鯉海道祭りを開きたい」と榎さんと岡井さんは口をそろえます。横大路地域の活性化について住民と話し合いながら、3年ごとに祭りがあるという楽しみを、まち全体で共有するようなまちづくりが今後も行われていくでしょう。



晴天に恵まれた当日



羽束師橋から会場を眺める

フシミシュラン(ガイドブック) 《フシミシュラン》

24

伏見を訪れる人を増やし、まちのにぎわい作りの促進、地域コミュニティの活性化、まちづくりの活性化を目指して、伏見区内の観光名所、各種店舗を分かりやすく紹介するガイドブックを作成し、配布するため、伏見区内の様々なお店取材しました。まだまだ知らないお店や名所があることが分かりました。他府県から来られた方に、伏見の良いところを知ってもらえる手がかりの第一歩になったらと思いました。今も継続して取材したお店をブログで情報発信しています。これからもマイペースで楽しく続けていきたいと思っています。



作成した冊子がすぐになくなってしまいました。取材したお店の方にも喜んでいただきました。



大岩山の魅力を体感する自然調査プロジェクト

～里山の自然に触れて学ぼう！～

《伏見環境チーム》

24

地域住民・関係団体・行政の力で、「不法投棄ごみの山から美しい里山へ」と蘇った大岩山の自然を後世に残すことを目的として、生息する動植物に関する調査資料の作成やこども自然教室（自然観察会）を実施しました。それらを通じて、里山の魅力を学ぶ場を提供しました。

また、大岩山の散策路に動植物の解説看板を設置し、訪れる人々に里山の魅力を発信しました。



里山の魅力を発信や里山の魅力を学ぶ場を提供できました。



醍醐コミュニティカフェ(醍醐大学)

24

《醍醐コミュニティカフェ実行委員会》

将来、醍醐・小栗栖・石田地域において、まちづくりやコミュニティ作りの活動を行う人に向けて参考となる勉強会を開き、ウェブ上でアーカイブ化を行いました。醍醐地域の大部分を占める「団地」におけるコミュニティ形成や解決すべき課題を抽出し、ワークショップ等によって課題の解決策やアイデアに昇華し、レポート形式の記事をネット上に掲載しました。



参加者の中から、醍醐の地域で活動を行い情報発信を始めるコミュニティリーダーのモデルが生み出されることを目標としました。



0. 3mm のものがたり ～ピンホールカメラでふしみをとろう～

24

《濃縮風景採集民》

みんなが持っている大切な風景、自分だけの風景、そんな風景を集めていきたいとの思いから、立命館大学の院生と講師を中心に活動をスタートさせました。

伏見での生活に視点をおき、日常の私的な「風景」へのまなざしに対する意識向上を目的として、夏と秋の2回、ピンホールカメラ（針の穴（ピンホール）をレンズの代わりにしているカメラ）の制作、撮影、物語付けというワークショップを開催しました。また、冊子「0.3mmのものがたり」を発行するとともに、「伏見区区民文化祭」に作品を出品しました。



時間をかけて写真を撮り、物語を付けていく中で、今出会った風景に愛着が湧いたとお声をいただきました。



(3) 平成25年度の取組

淀南地域の歴史本作成作業 <淀南地誌の会>

25

淀南地域は、江戸時代に美豆村としてまとまっていたが、明治時代に木津川、淀川の付替えで地域の繋がりが地形的に分断され、住民の結束に打撃を受けました。その影響は現在にも至っているものの、その事実を知る者は、80歳以上の高齢者で、人数も少なく、記憶も薄れてきており、忘れられようとしています。そこで、地元の有志の者が会を結成し、佛教大学の植村善博先生の指導を受けながら、歴史の本を作成することにしました。



完成した冊子は、地域諸団体や学校等に配布する予定です。住民の地域への関心と町づくりの振興に貢献できればと思っています。



高齢者サロン活動「茶房ありがとう」

<小栗栖宮山学区社会福祉協議会>

25

小栗栖宮山学区では、小栗栖宮山小学校「すこやかサロン」を拠点に、高齢者の見守りや居場所づくり活動を行っていますが、学区南部地域の高齢者までは網羅できていない現状にあります。このため、南部にある府営小栗栖西団地集会所に、高齢者が気軽に安心して集える喫茶型サロンを新設し、定期的に開催しました（毎月1回）。高齢化が進んでいる同学区において、独居高齢者の孤立を防いで地域の絆を強めることができると考えています。



地域の一人一人をつなぐ拠点になればと考えています。



淀の歴史、文化を広めるための紙芝居制作・公演事業

25

〈淀みず車の会〉

淀地域の歴史や文化、自然などを紙芝居や小冊子等の資料にして、地域の皆様に伝えていくことを目標としています。淀に伝わっているものを再発見し、埋もれていたものを発掘し、それらを紙芝居にして、広く地域の皆様に郷土のことを知ってもらおうと、今年度は、「知ってる？淀・・・」と「街道をゆく・・・鳥羽街道・・・」の二作品を完成させました。3月には次作品が完成する予定です。完成した紙芝居は、淀周辺地域で、老人会、病院、社会福祉協議会、小学校、保育所等で公演を行っています。



読み手の養成とスキルアップが課題ですが、新聞社からの取材、記事掲載が活動の励みになっています。



災害に強いまちづくりをみんなの力で

25

〈池田東自治町内会連合会〉

池田東自治町内会連合会では、毎年「総合防災訓練」を実施していますが、今年度は、新たに「避難所運営訓練」を実施しました（9月22日実施）。

実施に当たっては、実行委員会を立ち上げ、大災害発生時の避難所における各自の役割を決め、スムーズに運営できるよう準備しました。また、「災害に強いまちづくりをみんなの力で」をスローガンとしたポスターを作成し、全学区民を対象に、災害に対する意識啓発や訓練参加の呼びかけを実施しました。



学区の7町内会で組織された自治町内連合会会員1,500世帯、4,500人の方を対象に実施しました。



おやこでアートを楽しもう <l.m.a>

25

伏見区は、未就学児の母親や移住者などと地域との接点が少なく、安心して集える場所が少ないように感じました。そうした方々と地域の方とのコミュニケーションの機会が増えれば、暮らしやすい安心感のある地域になるのではないかと感じました。そこで、伏見に暮らす子育て世代を対象に、アートを通じて交流を深め、表現する場を提供する取組みを行いました。週に1回、計50回程度の講座を実施し、月に1回、親子で参加できるアートイベントを行いました。大手筋商店街の企画にも講師として参加し、共にイベントを行いました。



講座は、口コミで広がり、リピーターを獲得することができました。日頃、学校の授業では学べない内容を意識したため、子どもたちも楽しんで参加していただきました。スタッフが少なかったため、今後は、受け入れ体制の強化をしていきたいと思っています。



こちよい新町三丁目のまちづくりに向けて

<<新町三丁目まちづくり検討委員会>>

25

新町三丁目では、歴史的な町並みと調和した住みよい環境の維持、既存住民の地域の絆の再認識及び新住民との交流が大きな課題になっています。その状況を踏まえ、町内会の中に、まちづくりの企画・立案を行い、町内会や関係機関と連携し、町内会の良好なコミュニティの醸成とこちよいまちづくりを推進することを目的とした「新町三丁目まちづくり検討委員会」を設置しました。委員会を中心に新町三丁目を取り巻く様々な課題分析と共有を行い、地域住民の絆の再構築を基本とした、まちづくりルール案の作成、新住民を迎えるためのルールづくり、新住民へのまち案内づくり等に取り組みました。



地域皆んなによるまちづくりルールにより、いつまでも安心して住み続けられる「こちよい新町三丁目のまちづくり」を目指します。



伏見のヒーロー伝説とまちづくり計画

《伏見歴史顕彰会》

25

伏見に関わる歴史事実を正確に後世に伝えるとともに、伏見のまちづくりに役立てることを目的としています。地元伏見においても「天明伏見義民事件」が、ほとんど知られていないことを受け、「天明伏見義民事件慰霊祭」に参加し、「伏見のヒーロー伝説」として、「天明伏見義民事件」を広く世間にPRするため、パンフレットを作成し、関係機関に配布しました。今後は、さらなるPRを行うため、講演会やシンポジウムの開催、義民マップやグッズの作成等、それらに関連したまちづくりに取り組んでいきます。



義民事件は、一般には暗い題材ですが、本会では伏見のまちの繁栄と住民の幸せな生活をもたらした明るい側面を強調します。



桃山南学区安全マップ作成

《桃山南学区自治会連合会》

25

桃山南学区では手作りのマップを作成しました。マップ作成には自治会連合会をはじめとした地域各種団体のボランティアや桃山南小学校の児童・PTAが参加し、マップ作りのポイントを学習してから学区内を歩き、小学校の協力を得て学区内を8つのブロックに区切った安全マップができました。

作成したマップは、小学校に掲示し、当日参加できなかった児童も見ることができるようにしています。また、8枚のマップは、模造紙大なのでコンパクトに印刷して配布しました。



マップの作成を通じて子どもたちの安心・安全につなげるとともに、地域の連帯を深め健やかな暮らしを支えるまちづくりを目指します。防犯の観点からも、犯罪や交通事故等の発生ゼロを目指します。



おおぞら少年少女ラグビーチーム中学生になってもスポーツ続けようプロジェクト 《特定非営利活動法人 伏見クラブ》

25

区内におけるスポーツ環境の整備と競技人数の増加、健全な青少年育成と地域貢献を目指して、また、ラグビーが盛んな町であり続けることができるように、区内の15歳以下の少年少女を対象に、経験の有無等を問わない、誰でも参加できるラグビースクールを開催しました。平日夜の下鳥羽競技場での練習会では、最大で50名を超える参加があり、12月には市内の小学校高学年を対象としたラグビー大会となる「第1回伏見カップ」を実施することができました。



支援事業に採択されたことで、運営資金の確保ができ、多くの方にPRすることができました。



伏見まちかど音楽隊 《伏見まちかど音楽隊》

25

音楽を効果的なコミュニケーションツールと捉え、音楽を中心としたコミュニティ形成の推進を図っています。その一環として、「伏見まちかど交流演奏会」を定期的で開催しています。

「伏見まちかど交流演奏会」では、レベル、ジャンル、年齢などの枠を設けず、誰でも気軽にパフォーマンス（自己表現）ができる場所を提供しており、開催することによって出演希望者は増え、好評をいただいています。また、地域のイベントに出向き、野外での音楽祭の企画をすることで、そのイベントの集客、イベントとパフォーマーのつながりを作ること等に貢献しています。



今後も、演奏会を継続的に開催し、より多くの方々につながりと交流を提供すると共に、作られたコミュニティの継承も踏まえ、若い世代との交流も視野に入れていきたいです。



きずなづくりニュータウンで防犯活動 新聞及び防犯マップ作り

25

《向島二の丸学区防犯パトロール隊》

向島地域を中心とした防犯活動に準じた新聞を発行し、地域住民各戸に投函しました。新聞は、パトロール隊が行っているパトロール活動の中での特筆すべき事柄の掲載や、地域で行われた行事等の取材、防犯に対しての啓発等の資料を参考にしながら作成し、住民の防犯意識の向上に向けた活動を行っています。

今後も更に充実した紙面作りに努力し、地域住民とタイアップした新聞作りをしていきます。



読者から、思いのほか良い共感を得ています。ただ、印刷代が予想よりも高くて、両面カラー版での印刷は初回のみとなりました。



竹田南部あんしん安全まちづくり事業

25

《田中宮市営住宅自治会》

地域コミュニティが衰退し、住民の高齢化が進んだ現在において、長らく自治組織が機能していなかった田中宮市営住宅では、災害発生時の安全の確保に大きな課題が生じています。そのため、市営住宅のみならず周辺地域の防災意識を高めるとともに、有事に、住民同士が助け合い、被害を減少させるため、市民防災センターを利用した防災学習ツアーやワークショップの開催などを行いました。また、防災学習ツアーでの体験をもとにした絵本を作成し、地域での防災活動で広く活用していく予定です。



防災学習ツアーでは、子どもや高齢者達の真剣に取り組む姿に見学にきてよかったと思いました。



ゆるキャラで町おこししよう 《ゆるキャラで町おこし実行委員会》

25

ゆるキャラを使い伏見の町を紹介することにより、より多くの方に伏見という町に興味を持っていただき、町に遊びにきてもらいやすくします。豊臣秀吉の友達の設定で、頭に瓢箪をのせた「ふ～しい」というゆるキャラを使って、WEB上でふ～しいの伏見散策マップ（スマホ対応）を作り、観光マップとして稼働しました。また、「ふ～しい」の観光マップを作り、配布します。

また、いろいろなイベントに参加したり、Tシャツ等を製作したりし、盛り上げました。



ゆるキャラ「ふ～しい」で伏見を盛り上げたいと考えています。



みんなで楽しむ伏見の新 sake スタイル提案

25

《京都市伏見地域活性化プロジェクト～学びで観光の質向上を～》

「外部から人が多く来て賑わっている状態」を地域活性化と定義したうえで、伏見の魅力を知ってもらうことを目標とし、伏見の代表的な産業である日本酒に着目し、「新 sake スタイルブック」を作成しました。このスタイルブックは、日本酒の新しい楽しみ方を提供するフリーペーパーとして、大学生に配布し、日本酒にマイナスのイメージを抱いている若者に対し、プラスのイメージを抱いてもらうことを目的としています。また、12月には留学生対象の街歩きイベントを実施しました。



酒蔵見学や取材を通して、日本酒作りの奥深さやこだわりだけでなく、歴史や文化、街並みなどの魅力を知ることができました。



共働き家庭の増加，近所付き合いの希薄化や核家族化の進行により，子育て中の家族が地域から孤立しやすいこと，多様な子育てのなかで「父親」がどう関わるのかを話し合う機会が少ないこと，また，様々な地域の子育て支援活動があるなかで，「父親」としての接点を見いだせないということを課題としてとらえています。そこで，育児に関する「もの」づくりを通じて，父親のネットワークをつくり，自然や歴史，そして伝承された技に出会う「こと」で，子どもや家族と対話するきっかけとなり，思いや関係を形にするという「父親」ならではの取り組みとして，乳幼児期の親を対象として，木のおもちゃや木の食器づくりを行いました。



毎回プログラムのなかに，ハナスバ（※「話す場」の造語）の時間を作り，参加者同士がオープンにコミュニケーションができるようにしました。



伏見区の桃山丘陵にある桃陽病院，市立桃陽総合支援学校に付随する学びの森（約2ha）が近年ナラ枯れの被害に遭っています。生徒たちの野外活動の場であり，心の安らぎの場でもあるこの学びの森を主な活動場所とし，清掃，除草作業だけにとどまらず，ナラ枯れした樹木を伐採し，丸太や薪等に有効活用した再生可能なクリーンエネルギーの創生と，児童や子ども達が安全に楽しく森に入れる環境作りを目指します。クリーンエネルギーは，深草こどもの家などに供給しています。



自分たちの活動が，環境維持に貢献しているという自負がご褒美になっています。



伏見の「知の資源」を伏見で活かそう！

《特定非営利活動法人 深草・龍谷町家コミュニティ》

25

区内には、社会課題解決に向けて活動するNPO法人や高い研究成果を有する大学教員など「知の資源」とも呼べる人材が多数存在します。それらの人々に活動や思いを語ってもらう連続講座を「伏見賢人講座」として7回にわたり開催しました。区内に存在する課題を解決するために、複数のセクターによるマルチパートナーシップを形成し、各団体の活動内容を知り、連携に結び付くヒントを探る講座を開催しました。



「大学のまち伏見」の学生の
パワーを地域に投入できる
ことも期待しています。



安心安全の「まちづくり」活動

《春日野自治町内会連合会》

25

地域コミュニティが希薄になりつつある中、「安心・安全に住める環境」を作り、地域住民がお互いを思いやり、見つめ合える、ぬくもりのある地域づくりの構築を図るため、統一デザインの「ステッカー」を作成しました。

作成したステッカーは、各戸に掲示し、お互いの意識向上と住民相互の連携強化を図ることができるような「安心・安全のまちづくり活動」を行います。また、年度末には「安心・安全のまち春日野宣言大会」を開催予定です。



ステッカーのアイデアは、学
区住民から募集しました。



(4) 平成24～25年度の取組

地域のコミュニティ活性化の祭典！「秋の豊穡祭り・子供みこし巡行」

《醍醐西自治町内会連合会》

24 25

各々の年代層で地域社会での世代を超えた交流活動の委縮化が進んでいることから、地域のコミュニケーション活動の一大行事として、毎年11月に「秋の豊穡祭り・子供みこし巡行」を実施しました。祭り前日の子供みこしの飾り付けや、当日のみこし巡行を通じて、学区内の老若男女が世代間を越えて元気に仲良く挨拶を交わし合える場を作ることにより、高齢者の見守りや孤独感の解消、子供達への注意や非行の監視などを通して、地域の安心安全、皆んなで仲良く暮らせるまちづくりを目指しています。



みこしの飾りつけや巡行は、子どもたちと保護者や高齢者とのふれあいの場として、世代間の交流を図っています。



「向島駅前まちづくり憲章」の推進事業—健康福祉のまちづくり調査事業—

《向島駅前まちづくり協議会》

24 25

24年度は、「アンケート」を行うため10名のプロジェクトチームを立ち上げました。「アンケート調査票」について、内容等を協議した後、向島ニュータウン1街区～6街区（約4,000世帯）で「アンケート調査」を実施しました。1,356票を回収し、パソコン入力作業を行いました。

25年度は、調査を実施した向島ニュータウン1街区～6街区の自治会を対象に全体と街區別のまとめの「報告会」を行いました。

今後は、街区ごとの特徴、課題をまとめ、学区、街区など当該する単位別の「報告会」を行い、「報告書」を作成する予定です。



今回の調査結果は、住みよいまちづくりの達成に有効かつ優先的に取り組むためのツールと考えています。



2014・桜ゆらぐ疏水の街 ふかくさ・元気計画

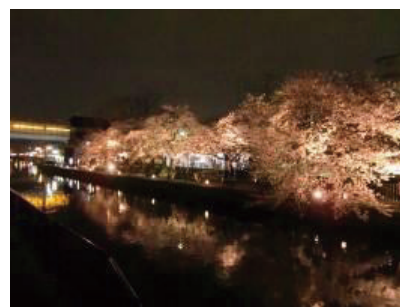
24 25

《京・ふかくさ・藤森桜並木を愛でる会》

ふかくさ・藤森を流れる琵琶湖疏水の良さや、桜並木の美しさを、伏見区民をはじめ京都市民、伏見を訪れる観光客の方々に知っていただくことを目的として、京阪藤森駅周辺の琵琶湖疏水の桜並木及び遊歩道のライトアップを実施しました。多くの方々に琵琶湖疏水の良さや桜並木の美しさを感じていただけました。26年春には、これまで培ってきたノウハウをもとにライトアップの地域拡大や、それに関するマップの作製を考えています。



イベントは、「みらいの環境を支える龍谷プロジェクト」のメンバー及び深草稲荷保勝会の方々と協力して実施します。



伏見の歴史と文化を学ぼう！～まちゼミ&まち歩き～

24 25

《伏見歩き隊》

24年度は、まちゼミ「伏見講話」をスタートさせ、計4回開催し、「伏見の歴史と文化」を市民とともに学びました。また、まちゼミで学んだことを広く市民に伝えるために、広報誌「まちゼミ通信」を4回発行しました。

25年度は、まち歩きの活動についても、まちゼミ「伏見講話」と一体となって行い、より多角的に学ぶことを目的として活動しました。



地域の方にできるだけ多く参加していただけるよう、工夫していきたいです。



「伏見のヨシ原，再発見！」プロジェクト

24 25

◀「伏見のヨシ原，再発見！」プロジェクト▶

伏見区の宇治川河川敷のヨシ原は，文化財社寺等の茅葺^{かやぶき}屋根の良質素材の供給地であり，西日本一のツバメのねぐらとなる等，様々な動植物が観察される自然の宝庫です。しかし，ヨシ原維持に不可欠なヨシ焼きが中断したことにより，ヨシ原の生態系の変化が著しくなりました。そこで，24年度は，ヨシ原の価値を再発見し，新たな伏見の財産として育てるため，ヨシ原保全対策と周知活動を行うことを目的として活動し，「新生ヨシ焼き」として住民の手で復活させました。25年度は，「新生ヨシ焼き」を定着させるべく活動するとともに，伏見でのヨシの活用も模索しています。三栖地域でかつては盛んに行われてきた「ヨシズ作り」を再興できたらと「ヨシズ作り体験会」等も積極的に行いました。



これまでの活動が認められ，地域住民に伏見のヨシ原への理解が深まったと感じています。



地域から広げる手作り市・久我・久我の杜・羽束師「ここはづ市」

24 25

◀ここはづ市実行委員会▶

平成24年9月から平成26年3月までに15回，久我の杜地域包括支援センターで「ここはづ市」を開催しました。「ここはづ市」という名称は，久我（こが）・久我の杜（こがのもり）・羽束師（はづかし）の3地域の頭文字から取りました。ここはづ市では，手作りを得意とするお母さんが中心となってブースを出すほか，音楽会や子ども向けのワークショップ，染物体験を企画しました。また，広報の一環でチラシやポスター，ブログを作成するとともに，「ここはづ通信」を発行し，広く住民に地域情報を提供し，子どもからお年寄りまで多世代の交流を図りました。



これからも，地域密着の手作り市を開催し，新旧住民の交流が深まり，子どもからお年寄りまで多くの人が集まる場づくりを目指します。



醍醐石田まちづくりプロジェクト

《醍醐石田まちづくりプロジェクト実行委員会》

24 25

醍醐石田地域においても、地域コミュニティの活力低下、人口減少、少子高齢化、コミュニティ拠点不足などが生じています。今後さらに地域コミュニティの絆が大切な時代となることから、24年度は、少子高齢化の推移調査や、学生による地域コラボレーションの試み、発掘などの調査を実施しました。それらを踏まえ、25年度は、若者を中心に、地元に住んでおられる方々が主体となって、将来に向けたまちづくりについて話し合われる取組を行いました。また、「まちづくりリーフレット」を作成し、議論の輪を拡げました。



住民のまちづくりに対する意識の醸成を目指します。



久我・久我の杜・羽束師地域における住民主体のまちづくり

《久我・久我の杜・羽束師地域まちづくり協議会》

24 25

平成23年10月に地域の中長期的なまちづくりの方針と、それを実現するための取組方針を記した「久我・久我の杜・羽束師地域の総合的なまちづくりビジョン」が策定されたことを受け、同ビジョンの基本方針に基づく事業を実施しました。

24年度は、まちづくりの輪を広げることに重点をおきながら、地域の関係者や施設、大学と連携した事業を展開しました。「薬膳講習会・地域の野菜即売会」や「ふれあい農業体験」、特色ある建物調査や「まちかどアルバム」のパネル作成等を行いました。25年度は、24年度の成果を踏まえ、さらに発展させて実施することを考え、特色ある建物を訪問する「まち歩き会」、地域の伝承を「紙芝居」にして残す取組、災害時に町内で助け合って避難するための要配慮者を把握する調査、久我菜を収穫する農業体験事業等を実施しました。今後も、地域に根差した深みのある取組を進めていきます。



取組を通して参加者とともに地域の良さを再認識できました。また、住民の地域への関心の高さを知ることができました。



深草のまちで育む藤袴プロジェクト <<深草藤袴の会>>

24 25

絶滅寸前危惧種に指定されている藤袴の苗を、深草地域の自治会、学校、商店街、地域女性会、NPOが主体となり、初夏に育て、秋には、まちのあちこちに藤袴の花鉢を飾りました。さらに、藤袴の花鉢を配置し、花を愛でながらの茶会を開催し、自然への理解と愛着を育む事業を行いました。そのほか、ふれあいプラザへの出展や地元学生ボランティアと協働で、藤袴の香りを楽しむワークショップを実施し、地域連携と自然への愛着を育む事業を実施しました。



藤袴を通じ、深草地域の各種団体との横のつながりが強化できたと思います。



深草産・竹紙うちわの技術・文化の継承プロジェクト

24 25

<<NPO 法人京都深草ふれあい隊 竹と緑>>

深草でうちわに関する伝統技術が衰退の危機にあることを危惧し、その技術を次世代につなげるための職人作りを目的としました。24年度は、竹の骨作りの機具、骨を編む際の補助具などを製作、研修のための準備作業を実施し、区民を対象にうちわづくりの体験教室を開催しました。25年度は、作業の細分化を企画し、地域団体に骨編みに挑戦していただいたり、大学とタイアップして、体験教室のスタッフ育成を始めるなど、一日も早く、技術継承が出来る職人さんを育てられるよう継続した取り組みを行っています。



支援事業のおかげで、伏見の幅広い層に呼びかけることができました。うちわ作りに関心のある方は、ぜひ体験会や研修会に参加してください。



第2回醍醐灯りのハーモニー～みんなのところに灯りをともそう～

《人づくり21世紀委員会 伏見東人づくりネットワーク実行委員会》

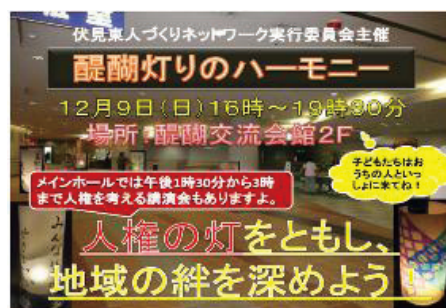
24 25

学校・家庭・地域社会の連携のもと、たくましい思いやりのある子どもの育成と子ども一人一人の可能性が最大限に開花できる条件作りを目指した当会は、地域コミュニティの活性化を図り、児童・生徒と保護者、地域住民がふれあい、絆を一層深め、地域ぐるみで子供を守り育てる機運を高めるため、醍醐交流会館において、「醍醐灯りのハーモニー」を実施しました。

イベントでは、人権灯路を点灯し、人権に関わる子どもたちの作品の展示や児童・生徒のステージ発表、様々な体験コーナーを設置し、身近な人権について考える場になりました。



地域の理解と協力を得て進めることができ、多くの参加者で賑わいました。



醍醐のこどもをつなぐ「人形劇フェスティバル」

《特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば》

24 25

近年、子どもを取り巻く社会の諸課題によって、子どもの育ちの多様性が損なわれており、人形劇や文庫活動などの児童文化に触れる機会が必要といわれています。醍醐地域では、「人形劇サークル」や「文庫連絡協議会」等、児童文化を形作る上で社会資源となっている団体があります。そこで各団体と連携し、地域の子どもたちが児童文化に地域の中で触れる機会として、「醍醐子ども人形劇フェスティバル」を開催し、住みやすい地域づくりを目指しました。



24年度は、「醍醐こどもボランティアセンター事業」として醍醐地域団体主催の子ども対象イベントへのボランティアコーディネート等も行いました。



4. おわりに（編集後記）

今回の事例集作成に当たり、活動についてお話を伺うため、いくつかの団体取材しました。その際、最も印象に残ったことは「区民活動支援事業」として活動に取り組む区民の方々が口をそろえて「よい仲間に出会えた」と言われることです。

「区民活動支援事業」をきっかけに伏見でのまちづくりを始めた人たちも、日頃から地域活動をされてきた自治会の皆さんも、1年～2年にわたる活動を通じて素敵な出会いがあり、伏見での顔なじみが増えました。

このように、結果として新しいコミュニティづくりのきっかけを生み出しているところに、区民が主役のまちづくりの魅力を感じました。

「防災や福祉など暮らしの中で気になることを解決したい」、「音楽や手芸など自分の得意なことを地域活動に活かしてみたい」、「伏見の自然や歴史を守りたい」など一人一人の心に芽生える思いが多様であればあるほど、活動の幅が広がり、まちは豊かになると思います。

次の「区民活動支援事業」ではどのようなまちづくり企画が飛び出すのか、どんな人と人のつながりが生まれるのか、とても楽しみです。

【本事例集に関する問合せ先】

伏見区役所地域力推進室企画担当（電話6 1 1 - 1 2 9 5）

【伏見区区民活動支援事業に関する問合せ先】

伏見区役所地域力推進室まちづくり推進担当（電話6 1 1 - 1 1 4 4）

深草支所地域力推進室まちづくり推進担当（電話6 4 2 - 3 2 0 3）

醍醐支所地域力推進室まちづくり推進担当（電話5 7 1 - 6 1 3 5）



平成 26 年 3 月発行
伏見区役所地域力推進室
京都市印刷物第 253217 号

